

平成27年度 第4回飯田市行財政改革推進委員会 議事録

日時：平成28年3月4日（金）18：30～19：40

場所：市役所 C313会議室

出席者：佐々木会長、山崎委員、永田委員、熊谷委員、佐々木(祥)委員、中島(修)委員
木下(秀)委員、森下委員、中島(た)委員、吉川委員

佐藤行財政改革推進本部本部長、総務部長、企画課長、財政課長、人事課長、事務局
欠席者：木下(隆)委員、細川委員、西塚委員、

1 開会（菅沼総務部長）

2 あいさつ

（佐藤本部長）

- ・それぞれの立場でご尽力いただき感謝する。委員任期中の3年間は平成26年度に公共施設マネジメント基本方針の策定、平成27年度は行財政改革について議論をいただいた。本日は次期行革大綱に向けた提言について協議をいただくのでよろしくお願ひしたい。
- ・行革的観点により旧庁舎も耐震化改修して活用することになった。今後もしっかり取り組んでまいりたい。

（佐々木会長）

- ・本年度まとめの委員会となる。第1回から第3回まで積極的に議論ができたと感じる。本年度は行革に対する大きな課題に取り組み、皆さんの協力で大変よい提言書になったと感じる。これまでの協力を感謝する。

3 協議事項

(1) 次期飯田市行財政改革大綱に向けた提言について

ア 提言案の検討経過説明（説明：資料に基づき事務局説明）

（佐々木会長）検討経過については会長副会長により最終確認をしたので理解願ひたい。

- ・質疑なし

イ 提言案の確認

提言内容の確認のため、基本方針1～3について佐々木会長が朗読し全体確認を行う。

ウ 各委員からの意見

（山崎委員）

- ・民生児童委員の立場で参加。提言書は理解しやすい内容でよいと感じた。地域自治組織発足から10年が経過し多方面で活躍しているが、南信濃地区は役員や各委員の受け手がない。また高齢者が多く支えられる側が多いことが課題となっていることから、まちづくり委員会と民生委員が協力し地域福祉プロジェクトを立ち上げ、見守り活動を実施している。単独組織では限界のため行政と関係者が一体的に取り組む必要がある。各団体との係わりについて見直しを積極的に行う必要がある。

（永田委員）

- ・高齢者の代表として参加。今後は飯田市も少子高齢化で大変な時期が来る。持続可能な財政基盤の確立に向けた取り組みについて高齢者の立場から多くの方に伝えたい。

(熊谷委員)

- ・財政基盤が弱体化しているように感じる。少子高齢化の影響もあるが財政を確保するのは難しいところがある。市民と行政の分担は市民に主体があるため明確にする必要がある。適切な役割分担については市民一人一人が自覚することが大切で、行政に任せきりさせない体制づくりや何をどのようにサービスしていくのか引続き考えていくことも必要である。提言書の内容は賛成である。

(佐々木(祥)委員)

- ・まちづくり委員会と地域協議会が両輪のように連携を取りながら取り組むことが大切である。20地域あるが自治会のあり方など多種多様な問題や課題があり考え方も違っている。丘の上では自治会未加入者が多いが加入の強制はできない。役員の受け手がないという課題がある。役員として活動するためには、仕事や生活面から60歳以上でないと活動は厳しいと実感した。まちづくり活動では参加しやすい体制づくりを行うことが必要と感じた。

(中島(修)委員)

- ・変革していくこと維持することはどちらも厳しい。他の例では長期計画等を策定するが市県民等に浸透していないように感じるところもある。次期行財政改革大綱は市民に伝えるために計画をたて実施してほしい。

(木下(秀)委員)

- ・PTAとしての立場で参加。提言に関しては理解できる内容である。PTAとしては少子化問題が課題である。例として丘の上の小学校は人数が減少しているが、近隣大規模校では施設も不足していると聞く。学校間で調整しながらよい方策があるとよい。

(森下委員)

- ・以前、地域づくりフォーラムの場で組合のあり方について協議した。組合活動について高齢者と若者の間で意見の違いが見られたが、自治組織等を運営することで地域全体の絆が生まれると感じている。役員の受け手についてはお互い支えあい助け合っていくことが大切である。

(中島(た)委員)

- ・消費者の会の代表として参加。安心して暮らせる飯田市であってほしい。行政と市民との適切な役割分担を行うことが大切である。市民サービスなどは職員と市民と同じ立場に立つことが必要。

(吉川委員)

- ・市民から行政に対するニーズを全て受け入れると行政が肥大化するため、持続可能にするためには大ナタを振ることも大切である。市民の声を聞くと行政と市民の役割については問題があると感じる。市民サービスは行革大綱のポイントになってくるので改めて考えていただきたい。市の職員は知恵を出して対応願いたい。

エ 提言書受け渡し

佐々木会長 → 佐藤本部長へ

4 報告事項

- ・平成28年度飯田市予算の概要について（説明：事務局）
- ・質疑等なし

（佐々木会長）

- ・提言書はこれまでの議論や皆さんのご協力により大変良いものができた。しかし細部については伝わりにくくなる部分があるため、事務局は上部へしっかり伝えていただきたい。少子高齢化となるが市民サービスとは何か、また市民の自覚が今後は問われてくる。これを解決することでより良い飯田市となると考える。

5 その他（説明：事務局）

- ・議事録の作成及び公開について
→ホームページで公開する。了承。

6 閉会（佐藤本部長）

- ・3年間推進委員として大変お世話になりました。飯田市の行政改革について長期議論いただき感謝申し上げます。これまで、多くの協議事項に対して議論を行い委員の方から様々な御意見をいただいた。提言をしっかりと受け止めてまいりたい。

市民との関係や地域自治組織のあり方については大事なテーマである。市民の方からは市役所の職員もしっかり頑張っているのと一緒に頑張ろうと言っただけのような働きをしたい。今後についてもそれぞれの立場から叱咤激励をお願いしたい。